

米騒動の『おかげたち』の心を伝えた金澤さんの語りに共鳴

ここでは、『米騒動とジャーナリズム』の執筆者の一人である金澤敏子さんの話を紹介します。1918年の「越中の女一揆」と呼ばれる米騒動は、米の暴騰に怒った『おかげたち』が、暴利を貪る米商人や富豪に対し、儲けのためなら人間の命がどうなってもよいのかと抗議し、生きるために立ち上がった闘いでした。金澤さんは北日本放送のアナウンサーでしたので、資料の新聞記事を読まれるとき、おかげたちの必死の思いが伝わってきました。こうした米騒動を新聞は好意的に伝え、1道3府38県に広がっていきます。ついに、1918年9月、寺内正毅内閣は崩壊し、政府に「社会政策」の必要性を認識させることになります。その意味で、米騒動は日本の最初の民衆運動であり、新聞を巻き込んだ市民運動の原点であると話されました。

その後、「白虹筆禍事件」(1918年の大阪朝日新聞の記事に対する言論弾圧事件)によりメディアは弾圧され、1925年に治安維持法が成立します。1942年、細川嘉六が旅館「紋左」で雑誌社の友人らを招待。そのとき撮影した記念写真を証拠として、神奈川県警特高課は共謀して共産党再建準備会議を行った上で、治安維持法違反で出版関係者ら60人以上が逮捕されるという泊・横浜事件が捏造されました。

「共謀罪」法案を廃案に追い込もう

戦後72年を経た今、「共謀罪」法案が国会に提出され、戦前の治安維持法を想起させます。この法案を廃案に追い込みたいと思いました。私は、かねてから行ってみたいと思っていた旅館「紋左」を訪れることができました。ありがとうございました(S・Kさん)。

現在も闘っている「治安維持法」犠牲者の遺族 今こそ真実を

最初に訪れたのは魚津の「米騒動発祥の地」海沿いに建てられた米倉庫群。かつては銀行が米を管理し、船で全国へ運ぶ(そして輸出も)手配をする。倉庫から60%の米俵を担いで軽(はしけ)まで運ぶのはおかげ達の仕事。男達は出稼ぎ漁業。子ども達、家族のひもじさを思いおかげ達が立ち上がった。明治からこの方戦争が続く中で、軍のためにあるいは儲けのために、米は品薄値上がりし、人々の口に入らなくなっていました。命と生活がかかっている。おかげ達の行動は市民運動の原点と言える。大正7年10月には首謀者として6名の女性が逮捕拘留されたが、そのとき釈放に尽力したのが、後に泊・横浜事件の中心人物とされた細川嘉六だった。そのつながりを語ってくださったのは金澤敏子さん。次に訪れた泊・横



浜の端緒となった料理旅館「紋左」でレクチャーを受けた。北日本放送で報道の仕事を勤め上げ、現在は「細川嘉六ふるさと研究会」で活動されている方だ。

1枚の写真ででっち上げられ逮捕

政治学者、評論家細川嘉六が出版記念に自分の故郷泊へ仲間を招待し、「紋左」の庭で撮った1枚の記念写真を「共産党再建準備会の謀議」の証拠とでっち上げ、写っている人、それらの人々とつながりのあった人60人以上の人が治安維持法違反で逮捕され特高警察の拷問を受けた。泊が嫌疑をかけられた現場、横浜の特高が動いたので「泊・横浜事件」と言われる。犯罪の実態が無くとも「謀議」の疑いだけで、簡単に法の網にかけてしまえた治安維持法。普通選挙法とセットで出来、初めは刑期も軽く、内容も普通に生活する国民には影響しないと時の政府は言っていた。しかし、一旦作られた法律は権力であつという間に改悪され国民をがんじがらめにした。

この戦争中の一大言論弾圧の事件は、終戦直前に駆け込み有罪判決を言い渡し、終戦時占領軍の追及を恐れて書類は破棄された。敗戦後釈放された人々は冤罪を晴らすための裁判を闘うが、記録が残っていない。治安維持法の廃止によって判決の根拠がないと「免訴」となる。有罪無罪の判決をせず事件そのものが無かった事にされてはならない。現在も裁判を続けている遺族もい

ニュース・フラッシュ

- 2月28日 「3・1ビキニデー集会」に県内から3人出席
3月2日 小松基地爆音訴訟の公判が金沢地裁で開かれました
3日 小松基地へ抗議の申し入れ
9日 6・9署名行動
12日 「原発ゼロ、志賀原発廃炉県民集会」が教育会館で開催され、200人でデモ行進
14日 映画「ザ・おもいやり」上映会(近江町プラザ)。16日(勤医協)でも
15日 エムザ前で「沖縄連帯街宣」「怒りの昼デモ」
18日 戦争をさせない石川の会の「共謀罪の危険性を考えるシンポジウム」に120人参加
19日 戦争を許さない!ピーステント「共謀罪緊急集会」で川本樹弁護士が講演
22日 エムザ前で「ヒバクシャ国際署名推進全国統一行動」が取り組みました
29日 「怒りの昼デモ」
4月6日 6・9署名行動
7日 小松基地へ抗議の申し入れ
9日 「平和の旅」に28人参加
12日 「怒りの昼デモ」
15日 「沖縄連帯街宣」
19日 「ピーステント」
22日 いしかわ市民連合の「シンポジウム」が開かれました

る。事件を風化させてはならないと、旅館前に2008年、有志によって石碑が建てられている。

「紋左」で美味しい昼食と歓談

「紋左」でご当地グルメ「たら汁」も含めた昼食を美味しく頂き歓談の後は、近くの細川嘉六のお墓参りをして次は2012年開館した「イタイイタイ病資料館」を見学。高度経済成長のさ中、公害が全国的に大問題になった。しかし本当は、神岡鉱山からのカドミウム汚染水による流域の被害は明治時代からあったのだ。骨への影響はホルモンとの関係があり、患者の多くが女性だったという。長く原因が確定されず「業病」とも言われ疎外されつつ痛みとたかたかった女性達。

学习満載の旅の終わりは「ますのすしミュージアム」で土産を買う。源のますのすしのパッケージの絵は、なんと石川県の中川一政画伯の絵とは知らなかつたなあ。活きのいい中川一政の絵は確かにインパクトがあって、売り上げに貢献している気がする。

今回の平和委員会主催の「平和の旅」、まさに今の社会情勢にぴったり。それぞれの場所で「風化させてはならない」という人々の思いから、今に生きる教訓を学ぶ旅だった(M・Sさん)。